

小 美 玉	シ テ イ	ダ イ ヤ モ ン ド
見つける。 みがく。 光をあてる。		

小美玉市シティプロモーション指針

令和2年3月

茨城県小美玉市



シティプロモーション指針策定の背景

人口減少・少子高齢化に進展による「地域の担い手不足の深刻化」が、我が国全体の大きな課題となっています。

小美玉市シティプロモーション（※1）指針は、小美玉市に対する参画・関与意欲を高め、「まちに真剣になる人」や「市外の小美玉ファン」を増やし、地域への愛着や誇りと当事者意識を持つ「シビックプライド（※2）」の高い地域の担い手を創出し、その地域の担い手が本市の魅力を市内外に効果的に発信する「共創参画プロモーション（※3）」を推進するため、考え方や取組方針等をまとめたものです。

※1 シティプロモーション

地域を持続的に発展させるために、地域の魅力を創出し、地域内外に効果的に訴求し、それにより、人材・物財・資金・情報などの資源を地域内部で活用可能としていくこと。（東海大学 河井孝仁 教授）

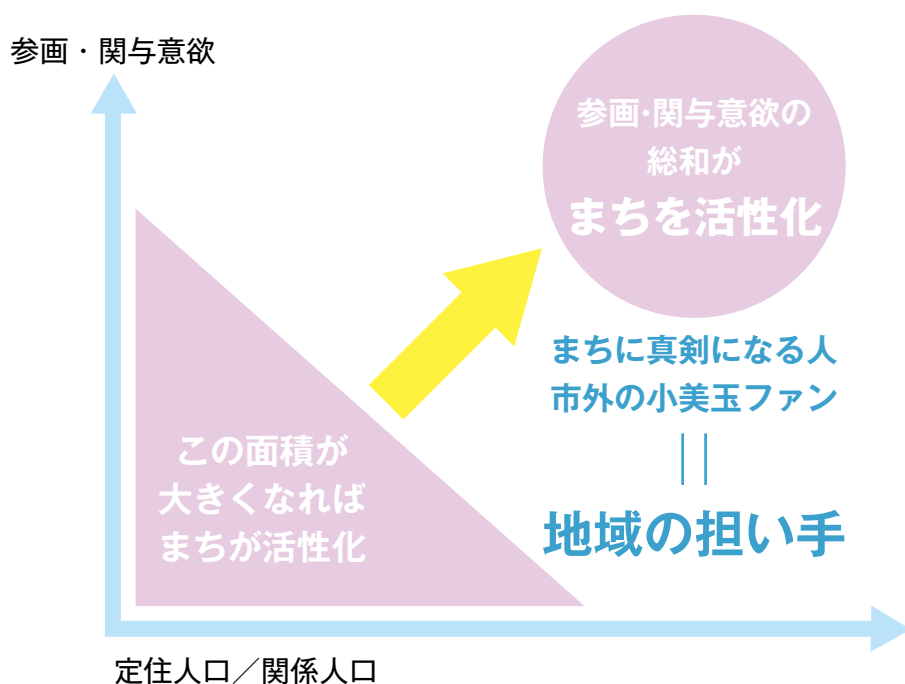
※2 シビックプライド

地域への愛着に加え、「地域をより良い場所にするために自分自身が関わっている」「自分がこの地域の未来をつくっている」という当事者意識を伴う自負心のこと。

※3 共創参画プロモーション

シティプロモーションには、市民や域外に住みながら積極的に参画してくれる・応援してくれる人たちがどれだけまちに関わろうとする意欲を持っているのか、共に創っていく「共創参画」という発想が求められる。（東海大学 河井孝仁 教授）

図1 市内外の人々の参画・関与意欲の総和がまちを活性化し、地域の担い手を創出する



小美玉市のシティプロモーションのねらい

地域を持続的に発展させるために最も大切なのは、地域に暮らし、持続的に地域の幸せを創り出そうとする住民の存在です。小美玉市を知人に推奨する人、小美玉市をより良くしようとする活動に参画する人、小美玉市のために頑張っている人に感謝する・応援する人。これらの人たち＝地域の担い手をシティプロモーションによって創出します。

進学や就職で転出した人たちも、地域の担い手として捉えることもできます。年に一度の祭りや伝統行事に帰ってきて参加したり、文化芸術・スポーツで子どもたちに指導したり、ふるさと納税で支援するなど、市外に住んでいても地域の担い手になってもらうことができます。

地域の担い手の「推奨意欲」「参加意欲」「感謝意欲」によって小美玉市に対する熱量が上がることで、小美玉市を訪れたい・住みたい・住み続けたい気持ちが高まり、暮らしの満足感・幸福感が高まる、「シティプロモーションによる好循環サイクル（図2）」を生むことをねらいとしています。

また、地域の状況や急速な社会変化に即応していくため、本指針を適宜見直していきます。

図2 シティプロモーションによる好循環サイクル



小美玉市のシティプロモーションとは

小美玉市のシティプロモーションの内容を次のとおり整理します。

1. 小美玉市のシティプロモーションは、何のために行うのか

- ① 小美玉市への熱量を高め、シビックプライドを醸成し、地域の担い手を創出する
- ② 地域の担い手が、人・モノ・金・情報等の地域資源を活用できるようにする
- ③ 地域の担い手に、本市の魅力を市内外に効果的に発信してもらう

2. 小美玉市のシティプロモーションは、どのような流れで行うのか

【共創参画プロモーションの流れ（図3）】

①魅力創造発信強化

- ・他のまちにはない、小美玉市ならではの魅力を市民参画により発掘し、「小美玉市と言えば〇〇」という小美玉市のイメージを創出し、磨き上げ、「小美玉市はこんなにも魅力的だ」とつい語りたくなる状態をつくる

②シビックプライド強化

- ・小美玉市への愛着と誇り、当事者意識を持つ人が増える

③地域への参加参画向上

- ・シビックプライドが強化されると、まちに関わる人が増えてくる

④地域のさらなる魅力向上

- ・行政やNPOにとどまらず、多様な主体の力によって地域の魅力が強化される

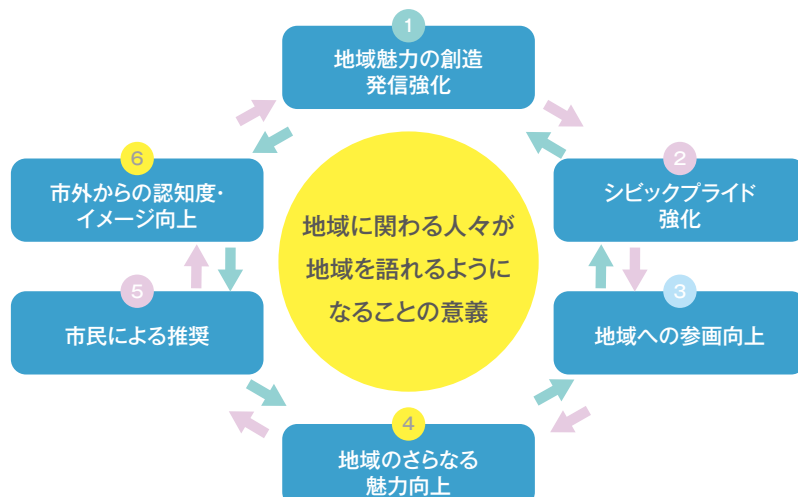
⑤市民による推奨

- ・「小美玉いいね」と市民が推奨し、発信しだす

⑥市外からの認知度・イメージ向上

- ・市民が推奨・発信すると、市外からの認知度やイメージ向上に繋がる
- ・市外の認知度が増えイメージが向上し「小美玉いいね」と言われる
- ・「いいね」と言われると、もっと良いまちにしたいくなる
- ・自分たちがまちに参加参画することによって、より素敵なまちにしていこうとする
- ・自己肯定感が高まる

図3 共創参画プロモーションの流れ



評価方法

シティプロモーションの成果を客観的に検証するため、mGAP（修正地域参画総量※3）を計測して効果測定を実施します。

※3 mGAP (modified Gross Area Participation / 修正地域参画総量指標。図4)

市民による、

- ①住んでいるまちをお勧めしたいという想い【推奨意欲】
- ②住んでいるまちをより良くするために、まちにかかわりたいという想い【参加意欲】
- ③まちをより良くするために、まちのために頑張っている人に感謝したいという想い【感謝意欲】

市外に住むターゲットとなる人々による、

- ④まちをお勧めしたいという想い【地域外ターゲットによる推奨意欲】

以上4つの意欲の量の足し算によって計算する。

各意欲の量は、意欲に人数を掛け算して求める。

意欲は、フレデリック・F・ライクヘルドが提示した、ブランドの力を計測するための指標である「ネット・プロモーター・スコア（NPS）」を参考に定量化する（図5）。

mGAPで用いるNPSは、10点から0点までで意欲の強さを尋ね、8点以上を「推奨者」、5点以下を「批判者」とし、推奨者の割合から批判者の割合を引くことで得られる数値によって求める。

図4 mGAP（修正地域参画総量）

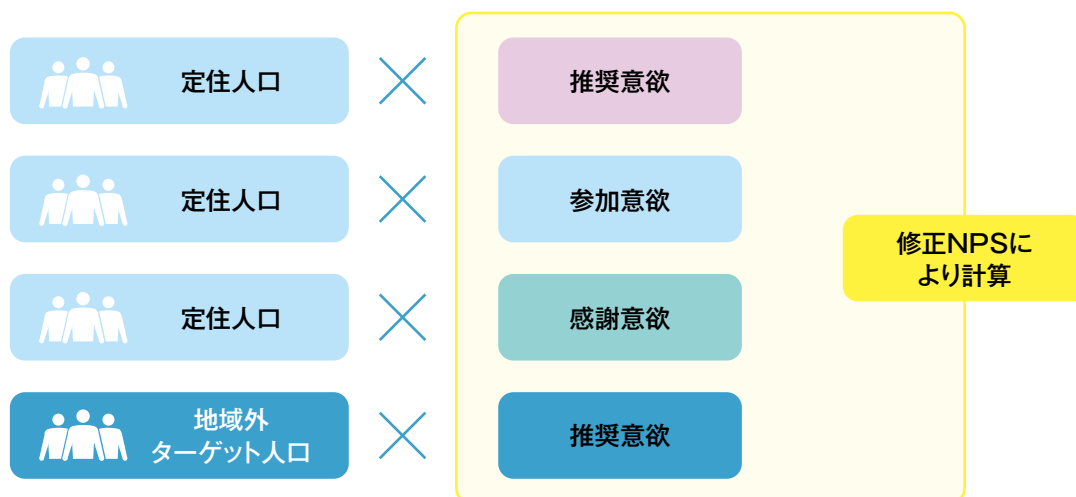


図5 修正NPS（ネット・プロモーター・スコア）



意欲 10~8 をプラス

意欲 5~0 をマイナスとして計算

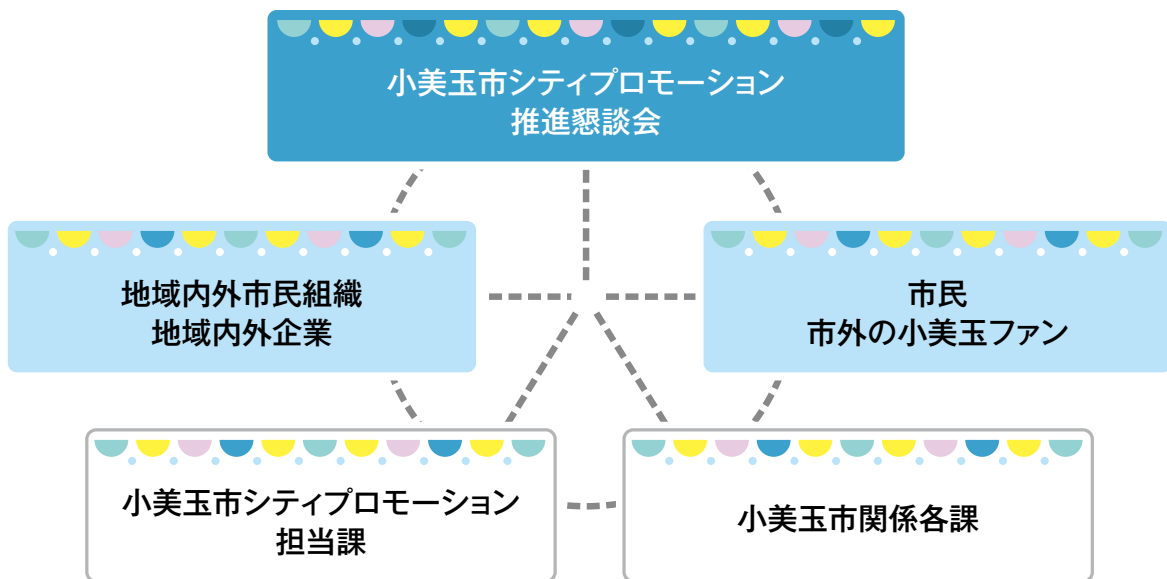
F.ライクヘルド『ネット／プロモーター経営』をもとに、河井孝仁氏（東海大学教授）が補正

推進体制

シティプロモーションの推進体制については、公募市民・関係機関・専門家で構成するシティプロモーション推進懇談会を中心に、小美玉市、市民や市外に住む小美玉ファン、地域内外の市民組織や企業が参加・参画・連携して進めていきます。

小美玉市シティプロモーション懇談会が進捗管理・評価・検証を行い、小美玉市はシティプロモーション担当課による市内関係各課への支援により、地域参画総量を増やす取り組みを行います。

図6 推進体制図



ブランドメッセージ

小美玉市シティプロモーション推進懇談会は、本指針の草案に伴い、本市総合計画や総合戦略と連動した「ダイヤモンドシティ小美玉 ～見つける。みがく。光をあてる～」を本市のブランドメッセージ（※4）として採用し、シティプロモーション活動の要として、各施策・事業など小美玉市における様々な取り組みと結び付けます。



私に光があたったのは
小美玉のことを一生懸命考えている人との出会い。

「あなたのことが必要です」
その一言で毎日が楽しくなった。

一緒にやろうという仲間たちと
小さな想いを磨き合う時間。

やりたいことに光があたって輝いて。
住んでいる人が主役になるまち小美玉。
今度は私が誰かを輝かせる番。

一人ひとりが小さく美しく輝く玉のように。
一人ひとりがダイヤの原石。

見つける。みがく。光をあてる。
ダイヤモンドシティ小美玉

※4 ブランドメッセージ

地域の魅力、独自性、優位性などを踏まえ、「どんな人が共感できるまちなのか」「どんな暮らしができるまちなのか」をわかりやすく表現したものであり、シティプロモーション活動の要となるもの。

小美玉市シティプロモーション推進懇談会設置条例

(設置)

第1条 市が実施するシティプロモーションの施策について、市、市民及びシティプロモーション関係団体（以下「関係団体」という。）の連携により、円滑かつ総合的な推進を図るため、小美玉市シティプロモーション推進懇談会（以下「懇談会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 懇談会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) シティプロモーションの指針の策定に関すること。
- (2) シティプロモーションの施策の推進に関すること。
- (3) その他シティプロモーションに関し必要な事項

(組織)

第3条 懇談会は、次に掲げる委員10人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 関係団体の代表者又は当該団体から推薦を受けた者
- (3) 公募による者
- (4) その他市長が必要と認める者

3 懇談会は、必要に応じて分科会を置くことができる。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠により委嘱された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任することができる。

(会長及び副会長)

第5条 懇談会に会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、懇談会を代表し、会務を総理し、会議の議長となる。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 懇談会の会議は、会長が招集する。

2 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者に会議への出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 懇談会の庶務は、シティプロモーション担当部署において処理する。

(その他)

第8条 この条例に定めるもののほか、懇談会の運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

シティプロモーション推進懇談会

VOICE



市民主体の小美玉らしい シティプロモーションに向けて

小美玉市シティプロモーション推進懇談会 会長 取出 新吾

私は民間人として2年間茨城県に常駐し、その後、茨城県広報監として3年間公務員として働き、合計5年間茨城県のために働いていましたが、その中で力を入れていた分野の1つがシティプロモーションで、県南の市町村職員とシティプロモーションの勉強会を立ち上げ、いくつかの市町村のシティプロモーションプランの策定に関わるなどの活動をしていましたし、また県外の市町村ともシティプロモーションに関して交流もあり、様々な自治体のシティプロモーションを見てきましたが、多くの自治体ではシティプロモーションを単なる広告宣伝のように捉え、マチの魅力を市外の方に伝えて人口増を図ろうとしているものばかりで、市民不在での対外活動ばかりに重きを置いている姿に強い違和感を覚えていました。

四季文化館「みの〜れ」で市民向けのシティプロモーションや郷土愛の醸成に関わる講演をさせて頂いたり、公共コミュニケーション学会 茨城部会の活動を通じ、熱い思いを持った凄い市民がいるなど感銘を覚えました。小美玉市からシティプロモーション推進懇談会の会長をして欲しいと依頼された時に二つ返事で引き受けたのは、「みの〜れ」に集う市民の持つ熱意をより多くの小美玉市民に広げられたら、他に類を見ないシティプロモーション活動ができるのではないかと考えたからです。

実際、小美玉市シティプロモーション推進懇談会が結成され、委員の皆さんとお会いすると、小美玉市に対する深い愛情をもち、明るく活発に参加され、毎回圧倒されるほどです。

現在、小美玉市では、シティプロモーション指針の策定も行われていますが、推進懇談会メンバーの意見もきちんと取り入れられており、かなり良いものに仕上がりがつつあると感じています。このような指針は一度策定すると何年間も変更しませんが、小美玉市のシティプロモーション指針においては、策定後も市民のアイデア・意見・要望や世相を取り入れバージョンアップしていきながらさらに良いものにブラッシュアップしていきたいと考えております。

今後、推進懇談会発案のイベント・ワークショップなど様々な活動が行われていくと思いますが、そのような活動を通じ、小美玉市の市民の皆さんに小美玉愛を高めて頂き、その思いを持つ同志を増やしていき、市民自らが小美玉市を心から自慢していく、そんなシティプロモーション活動になるように微力ながらお手伝いをしていこうと思います。



一期一会

小美玉市シティプロモーション推進懇談会 委員 稲毛 幸子

小美玉市の張星で2017年9月からカフェを開いています。個人経営で自由気ままな店主の稲毛です。カフェ経営と言うのは飲食店の中では一番稼げないと言われていました。大手チェーンの飲食店でアルバイト経験を経て、それは身に染みて感じていました。小さなカフェでは原価は高く、回転率は悪い。仕入れから調理、店の中や外の清掃まで考えやらずにはならない。「カフェは、やめた方がよいよ」と何度言われたか分かりません。ただ何度止められても「やらない」という言葉では済まないほど想いは大きく育っていました。好きな物や家具を集めた空間。優しい味の料理やデザート、コンセプトに合うBGMが流れる店内。特に古い物を活かしたレトロなリノベーションをしているお店は見るだけでトキメキが止まりませんでした。「自分らしく」を表現するのにカフェは外せないモノだったのです。運良く近場で古い物件に巡りあい、旦那と一緒に壁をハンマーで壊すところから始めました。ペンキを塗ったり壁を作ったり、何か月もかけて好きなようにリノベーションすることが出来ました。開業してから「もう無理！」と思う瞬間も多々ありますが、会社員では知りえなかった事、経験できなかった事、出会えなかった人、お味噌汁を一口飲んで泣き出した人。「ここに連れてよかった。ごちそうさま。美味しかったよ」という言葉達。私の中に残るキラキラ輝く宝物は増えていくばかりです。

小美玉市にも色々なお店や物、人がいます。まだまだ出会えてないモノが沢山あると思います。知りたいし、知ってもらいたい。誰かと共有していきたい。シティプロモーションという言葉と出会い「・住んでいるまちをお勧めしたいという想い【推奨意欲】・住んでいるまちをより良くするために、まちにかかわりたいという想い【参加意欲】・まちをより良くするために、まちのために頑張っている人に感謝したいという想い【感謝意欲】」この想いは他人事ではないと感じました。

結婚して小美玉市に来て、出産して子育てを始め、開業してお店を持ちました。日々は目まぐるしく過ぎていきます。忙しくても自分にはできることは何なのか？たいしたことは出来ません。ただ、笑って毎日を楽しみ、素直に感謝を伝えられ、子供たちが育った街を誇れるように。そんな子育て街育てをしていきたい。「あなたのことが必要です。」そう言いあえる人とこれからも、この街で出会っていただけら良いなと思います。



人と地域と未来に向けて

小美玉市シティプロモーション推進懇談会 委員 植田 健一郎

シティプロモーションに関わらせていただき約一年が経ちます。まず驚いたことは小美玉市に情熱を傾ける「人」が沢山いるということです。これだけ情熱のある「人」が集まり行動すれば、市民を巻き込むことができるのではないかと感じました。

また、視察や研修を通してシティプロモーションについて学ばせていただきました。そこで知り得たのは、まちを活性化させるためのロジックがあるということです。そのロジックとは、小美玉市を大切に想う小美玉市民や、市の垣根を越えたファンをたくさん創ることで明るい豊かなまちになっていくということです。実際、まちづくりに関わっていても実際の生活が豊かになったかは、わかりにくい部分があります。しかし、それを数値化して評価する手法があることを学びました。これを利用すれば客観的にシティプロモーションがうまくいっているかがわかり、関係者は自分たちの行動を評価することが可能になります。そして、トライ&エラーを繰り返して切磋琢磨し、他の市にないインパクトあるシティプロモーションになっていくビジョンが見えました。

私は、「過去から学び、未来を見据え、今を本気で生きる。」ということを信条にしております。今から10年前を考えると、3D映画が流行り3D元年と言われました。今は3Dプリンターが医療現場で活用され、10年後は3Dプリンターが当たり前となり、2040年頃には私たちは、ホームセンターにDIYの材料を買いに行くのではなく、設計図をダウンロード購入し材料を印刷して使用するとされています。25年後は車が空を飛び、ロボットと人をつなぎ会話をしながら歩いているのかなと想像しています。

しかしながら、時代が変わっても「人」や「地域」が大切だということに変わりはありません。生まれ育った小美玉市がダイヤモンドのように明るく輝くように、まずは、住み暮らす「人」に焦点を当て、シビックプライド醸成のために、既存の魅力発信や新しい魅力の創出に力を注ぎます。また、市内外にファンが増えるようWEBやSNSなどを最大限に活用し広報活動をします。もう一つ小美玉市の活性化を促す施策が必要です。それは、夢を持つ「人」を集めることです。その一人ひとりが小美玉市で自立可能になれば、夢を持ち好きなことを仕事にする「人」が小美玉市に集まってくると考えるからです。そういった夢を語る「人」と、夢を応援する「人」が集まれば、夢を実現できるまち小美玉になると思います。

このような夢を持ちながら一生懸命活動していきます。是非、小美玉市を好きで情熱を持った方々と活動できれば幸せです。情熱を持った「人」集まれ！



まちを好きになるとき

小美玉市シティプロモーション推進懇談会 委員 菊池 理香

私は、チョークアートという絵の作家をしています。

正直言うと、私は地元のことについてあまり興味がありませんでした。地元で生まれ育ち、独特な田舎のしがらみを見てきた私はむしろ、面倒臭い、関わりたくないと思っていました。少しでも変わったこと、目立ったことをすると噂されることに鬱陶しさも感じていました。このチョークアートの仕事をするようになってからも、外の世界に目が向いていて、自ら積極的に地域のことに関わろうとはしていませんでした。

そんな時に、SNSを通して私の活動を知ってくれた方から、小美玉市が関わる活動に協力してくれませんかという依頼を受けました。それが、先に開催されたヨーグルトサミットの企画のひとつ『乳酸菌アートプロジェクト』でした。これは、ヨーグルトサミットを盛り上げようと市民の有志が企画したもので、市内の子供達にそれぞれイメージする乳酸菌の絵を描いてもらい、そのうちの3点を選定し、それを私がチョークアートで立体的なリアル画に描き起こして、子供達にプレゼントするというものです。

私の技術が必要とされたことの喜び。子供たちとそのご家族の笑顔を見ることができた喜び。このプロジェクトに関わったことで、小美玉市の活動を盛り上げようとする皆さんとの一体感を味わえた喜び。

私にとって、全てが新鮮でした。有志の皆さんは、大変な忙しさの中でもこのヨーグルトサミットを盛り上げようと積極的に動き、かつ楽しんでいる。そして私を「あの乳酸菌の絵を描いた人だよ」とあちこちに紹介してくれ、私は皆さんの明るいエネルギーに溶け込んでいく心地よさを覚えました。

それを機に私は、小美玉をもっと良くしていこうとする有志の仲間に加わることになり、皆がこの地を愛し、日頃からより良くするために考え行動していることを知りました。皆それぞれに希望を持ち、人の良いところを見つけるのが上手で、ちょっと普通と違ってても良いものは良いと認め、それを活用して何かできないかと前向きな発想をしているのです。

こうした志の高い人たちと出会い、意識が変わりました。かつて、関わりたくないと思っていた私は、こういった人々の姿にいつの間にか感化され、小美玉の住人であることを誇らしく思うようになり、他の地域の人々に小美玉の良さをアピールするようになりました。そして何か私だからこそ出来ることはないかと考えるようになっていったのです。

人は必要とされることで、貢献したくなる。まさに人の魅力を見つかる「みがかく」「光をあてる」ということ。地域においてのそれが、シティプロモーションにつながっていくのだと思っています。





小美玉だからできる、 自分らしい「小さなシティプロモーション」

小美玉市シティプロモーション推進懇談会 委員 小松崎 由美子

今年度から始まった「シティプロモーション推進懇談会」で、私は委員になりました。「シティプロモーション」という言葉は、実は私の中でまだ馴染めていません。「地域を持続的に発展させるために、地域の魅力を地域内外に訴求し、それにより、人材・物財・資金・情報などの資源を地域内部で活用可能としていくこと」という東海大学教授の河井孝仁氏の定義が、なかなかピンとこない。会議を重ねても、パーツごとは理解できるが、全体がまだボヤっとしたまま。ピシッと理解できない自分を「頭が悪いな～」と思っています。

ところで私はこの10年、小美玉市を中心に様々なボランティアをしてきました。そのほとんどが「自分らしさ」を発揮させてくれる楽しい活動でした。私はこの活動を通じ、たくさんの人やモノと出会い、小美玉市の魅力を学べました。この内容をみんなに伝えたくて、私はSNS（Facebook）で情報を発信しました。この習慣は、市内外問わず、みなさんにとって身近な「小美玉市」として認知された面が少なからずあったと思います。その代表例が「第1回全国ヨーグルトサミット in 小美玉」です。私は様々なコミュニティでポスターを囲み、みんなで「ヨ」のポーズをしながら写真を撮り、それをSNSに投稿しました。これができたのは、相手側の理解と共感と、そしてなにより「楽しむ心」を持ってくれたからです。いつも面白がってくれるみなさんを「本当にいい人たちだな～」「信頼できる人たちだな～」と感じました。そしてこの「ヨ」シリーズは、このイベントが「他人事」から「自分事」となり、告知をしてくれたり、遊びに来てくれたり、ボランティアをしてくれるなど、みんなが応援してくれる爆発的なパワーを発揮してくれました。

そして今回、コラムを書くことになり、再び「シティプロモーションってなんだ？」と悩み、定義を読みなおし、自分のこれまでのボランティア活動を振り返りました。そして気づきました。私がしてきたことは、小さな「シティプロモーション」の一つだったと。そしてそれは小美玉市だからできたことだと。だから私はこれからも学び、次世代が住みやすいまちになるよう、置かれた現状を踏まえながら、自分らしく活動していきたいと思っています。



チャレンジしたくなるまち

小美玉市シティプロモーション推進懇談会 委員 立原 陽子

私が委員になったのは、自分の経験が活かせるのではないかと思ったからでした。小美玉市に住み始めてもうすぐ6年。結婚を機に小美玉市に移住し、夫の仕事の映像制作をするようになりました。また、自宅で民泊を始め、国内、海外のお客様に利用していただいています。私にとって小美玉市は、新しい自分の始まりの場所です。

シティプロモーションでは、小美玉に暮らす人はもちろんですが、市の外に出て小美玉を愛してくれている人も地域の担い手となります。私は常陸太田市生まれ、那珂市育ちですが、20代は茨城を離れ、東京や横浜で働いていました。仕事で地元を出た経験、結婚で外から来た経験があるので、同じような立場の方の気持ちを理解し、どうアプローチすれば良いか考えられるのではないかと考えています。

私の経験ですが、地元を離れると地元が恋しくなり、好きだったことを思い浮かべては帰りたくなっていました。しかし、他の人に地元を自慢していたかという、あまり記憶がありません。「何も無いけど、人が温かくて居心地が良いんだよ」と言っていました。「何も無い」とは、有名な観光地が無いこと。茨城県民はだいたい同じことを言いがちですね。ではどうすれば自慢できるようになるか？一つの方法として、自慢できるネタ（情報）を形にして、人に伝えやすくすることが有効だと思います。『動画』はそのツールとして最適で、自分で観たり、人に観せた時に、イメージがとても伝わりやすいです。ご縁があって、小美玉市のプロモーション動画を制作させていただいていますが、この動画には外から来た私が驚いたこと、感動したことが、題材の一部になっていることがあります。小美玉に住んでいる人にとっては当たり前のことでも、自慢できることはたくさんあると思います。たった6年しか住んでいませんが、この動画制作を通して、私のシビックプライドはかなり高まりました。

私は小美玉市を、自己実現しようとする人が集まるパワースポットだと思っています。移住した当初は友達も知り合いもいませんでしたが、様々な活動をしていく中で、一人また一人と仲間が増えていきました。この懇談会のメンバーもそうです。職業も年齢も性別も違うけど、出会ってからの時間が短いけど、考えている理想の未来が同じ方向だから、長年一緒にいる同級生よりも結束が固いのではないかと感じています。理想の未来に向け、プラスの議論をする場があることはとても心地良く、パワーをもらっています。これからもっと、どんな人に出会えるか、何が出来るかが楽しみです。



私のシティプロモーション 「みんなが小美玉ナビゲーター」

小美玉市シティプロモーション推進懇談会 委員 田村 美穂子

小美玉市小川でクリーニング業をしています。

本業とはまったく関係ありませんが、茨城空港応援大使として2年間、茨城空港と小美玉市のPR活動をしました。私は特に、茨城空港を利用して各就航地へ多くの方に行ってもらえるようなPR活動に力を入れてきました。かわいい制服を着て非日常になれる時は、大型テーマパークのキャストのようで、楽しみながらPR活動をしていました。任期終了後は茨城観光マイスターS級を取得し、小美玉コンシェルジュ(観光PR大使)に応募して、再び同じような活動を再開。活動中に神戸市の方に「神戸に日帰りなんていわないで、ぜひ泊まってくださいよ」と言われたことが衝撃的でした。確かに、滞在時間を長くして、少しでも消費してもらわなければ、地元は潤えない。その意識の違いを痛感しました。しかしながら、自分自身が市内に関して細かいことにはほとんど無知であり、関係も持っているところが少ないことに気づきました。

どうしていいかわからないけど、自分ができることを何かしようと、当時開催予定の全国ヨーグルトサミットを、“勝手にPR大使”として様々な場面で勝手にPR活動しました。ヨーグルトサミットは大成功で終了しましたが、ここからが本番と私は思いました。たくさんの方が小美玉市を知って訪れてくれ、興味関心をもってくれた。リピーターを作らなければ、小美玉ファンは増やせない。そこで、街歩きで写真を撮る企画“ローカルフォト ツアー”に参加してみました。私と同世代や若い人たちが多く参加し、カメラを片手に市民の方に取材に行き、それをまとめてSNSで発信をする。といったことから、いろいろな人と交流できて楽しくなりました。

小美玉市を訪れた人に、見所とそこにいる地元人をセットで紹介できると、人との交流も持てさらに楽しめるのではないかと感じました。ただこれは、私が今までやってきた観光PRとは違います。そんな時シティプロモーションというものを知り、ここで活用できる場があるのではと思い参加しました。どんな人に小美玉市を知ってもらい住んでもらいたいのか、理想となる人物を探したり、ペルソナから生まれるブランドストーリーを作り、その一部でも体験できるプランづくりをしていく。まさにこれです。

この街に住み続けたい、住んでみたい、訪れてみたいといったファンづくりをし、そのなかで「あなたのことが必要です」と言いあえる人に出会っていききたい。これからも、いろいろな形のPR活動をしていきたいと思います。





小美玉市の魅力発見 ～皆さんの周りにも担い手はいます～

小美玉市シティプロモーション推進懇談会 委員 永野 恵美子

「シティプロモーションの担い手を増やすにはどうしたらよいか」が始まりでした。私の周りは担い手が多く恵まれていると感じました。別の角度からも人の繋がりがほしいと思い参加・活動しています。

何度か一緒に話し合っている中で人から人の繋がりができ勉強させてもらい仕事に繋げていきたいと考えていた矢先に、小美玉観光協会が小美玉市の豊かな地域資源や歴史・文化など観光資源を組み合わせた小美玉市魅力発見ツアー「冬のおみたま」を企画・立案・実施することになりました。

シティプロモーションのメンバー、小美玉市の区長さん、竹工芸関係者、神社仏閣関係者 事業者たくさんの方々のご協力で、無事盛況のうち！？終えることができました。現場まで駆けつけて頂いた方、快く引き受けていただいた方々に「感謝」です。

参加者の声で「健康祈願の神社めぐりができる街」「ご飯屋さん美味しかった」「手づくり体験が楽しかった」「また小美玉に来たい」「住職さんの話がためになった」「小美玉って何もないと思ったけど見るところがたくさんある」などご意見を頂き嬉しいです。関係者の皆様のおかげで成功！？したのかなと感じています。本当に感謝！感謝！です。ありがとうございます！

そして「また、小美玉に行きたいね」と言ってもらえるよう街づくりが出来るか？「ボランティアガイドの育成」が必要ではないか？など思うところは多々あります。観光地として埋もれている神社仏閣の観光地としての再発見、小美玉市の魅力を発信・発信のお手伝いをしていきたいです。

「私にも何かできるのではないかな？」「お店に来てもらうにはどんなことをしたらいいかな？」など皆さんと考えて次回のツアー、イベントに繋がりたいと思います。そしてみなさんのお手伝いが出来ればと思います。これからも、頑張っていきたいと思いますので皆さんお力添えをお願いします。



シティプロモーション活動って楽しいよ！ あなたも担い手として参加しませんか！

小美玉市シティプロモーション推進懇談会 委員 幡谷 貞賢

2019年春。年号が平成から令和に変わろうとしていた頃、市報に「小美玉市の魅力をどう伝えるか一緒に考えてみませんか、シティプロモーション委員募集」という記事がありました。はじめは何気なく読んでみて少し経って読み直したら少し気になってもう1回読み直したら委員応募の作文を書き始めていました。事務局担当の市職員さんの熱心な取り組みのお蔭で選ばれた委員さん方とワークショップやミーティング参加を通じて楽しい時間を共有して練り上げた思いがこうして指針としてカタチになったことはとても嬉しく思います。関係の皆様へ感謝です。ありがとうございます！

私たち委員が書いたコラムを先にお読みになって興味湧いてプロモーション指針をお読みになったか、プロモーション指針を先にお読みになりどんな人たちが委員になっているのだろうと興味が広がってコラムに目を通していただいているか、どちらでしょうか？こう書くと何か違いがあるのかなって期待してしまいますよね。スイマセン、違いはないんです。でもどちらが先でも同じく大事なことがあるのです。それは「見つける。みがく光をあてる。」というブランドメッセージのページをお読みになったことです。「えっ、お読みになっていない」そんなことはないと思いますもう一度ブランドメッセージをお読みになってみて下さい。1回目にお読みになったときと感じがちょっと違いますか。冒頭に書いたように2回目を読んで、3回目読むと書いてあることが自分と関係あるように思えてきます。カッコ付きで表現されている、あなたのことが必要です、のところで何か楽しいことがあるかもって感じていただけたら私たちはとても嬉しいです。

担い手というとかタイヘンで責任があるんじゃないかと思うかもしれませんがそういうことではないのです。ここがシティプロモーションのいいところ。お一人おひとりが日々感じている、誰かに何かを薦めたい気持ちや自分が何かやってみようという気持ちや誰かに感謝したい気持ちをいっぱい集めればいいのです。さあ、多くの市民の皆様の参加お待ちしております！



農業とシティプロモーションと私

小美玉市シティプロモーション推進懇談会 委員 保田 知紀

初めまして、小美玉市部室で酪農をやっています。保田 知紀です。

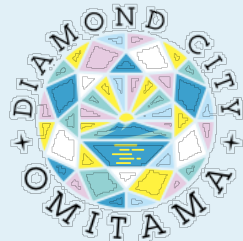
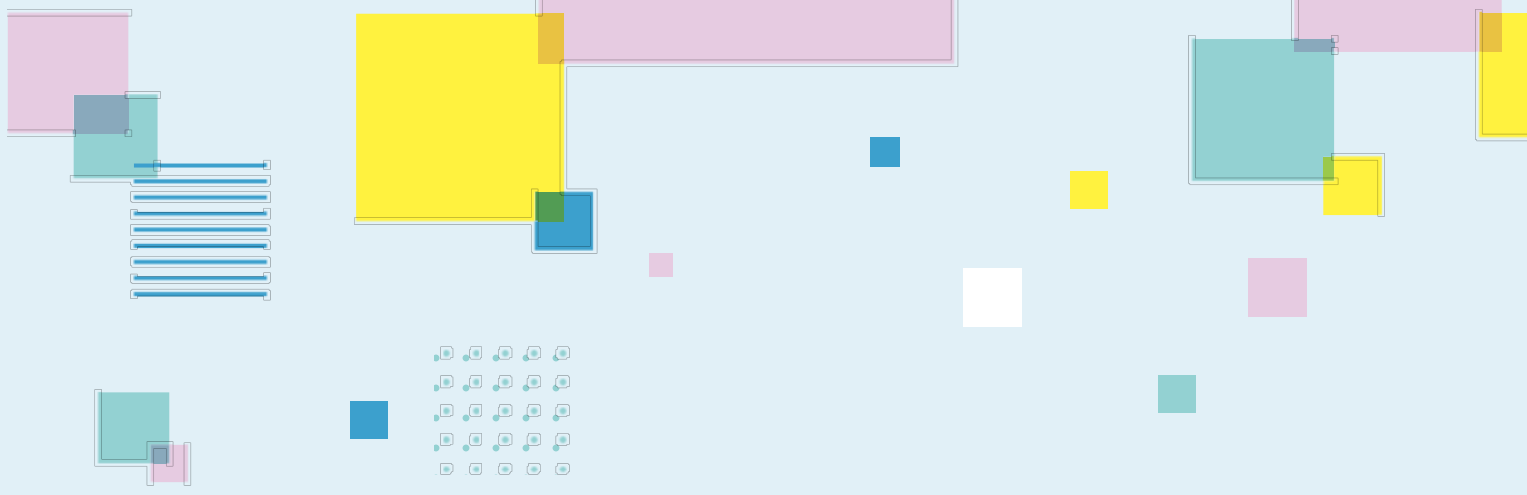
私がシティプロモーションに興味を持ったキッカケは、言うまでもなく第1回全国ヨーグルトサミットin小美玉です。酪農業協同組合の青年部の部長としてお声がけ頂き、約1年半の間たくさんの異業種の方々とサミットの準備を進めました。その時まで一般の人たちは酪農に興味がないと思っていました。牛乳の消費は落ち込み、豪州産の牛肉が大量に店頭で並ぶのを見て、私はそう思っていました。けど実際は違っていました。多くの消費者が酪農のこと牧場のことを全く知らない分からない、そんな状況でどんな牛乳が美味しいのかなんて考えることもしないというのが、本当のところなのだと感じました。

10年前に日本の畜産業に大打撃をあたえた口蹄疫以降、牧場の出入りは禁止され多くの人が牧場の仕事、酪農業を知らずにいたのです。そして、本当は牧場の中を見たいと思っていることも知ることが出来ました。私たち酪農家も牧場のことを語ることもせず、どうせ興味などないと消費者を遠ざけていました。私は多くの人たちに酪農のことを知ってもらいたいと思うようになりました。これから小美玉で酪農をやっていく仲間がどのような想いをもっているのか、多くの人たちに伝えることで、少しでも今後の酪農業に寄与出来るのならば、青年部長としてこんなに有り難いことはないと思います。そのためにはシティプロモーションに参加し、その活動を通して多くの人たちと知り合うことで、その人たちの考えに触れて理解すること、そしてこちらのことを理解してもらうことで、酪農業さらには農業という“なりわい”を知ってもらうことが大切なのではないかと考えています。

ある人に「農業では人を呼ぶことは出来ない。」と言われました。確かにたくさんの人を呼ぶことは出来ないと思います。でも、農家は転勤しません。余程のことがない限り小美玉に留まり、農業を続けていきます。一度に呼べる人は少なくとも継続的に人に来てもらうことが出来ます。先日、イチゴ農家さん取材する機会がありました。どの農家さんにもその人のイチゴのファンがいて毎年買いに来てくれました。このような地域を根ざし、地道な努力を続けている農家が、小美玉にはたくさんいます。

そのような農家を市内・市外の人たちに、少しでも知ってもらえるようシティプロモーションの活動を続けて行きたいと思います。





ダイヤモンド
シティ
小美玉
風が吹く
お祭り
美を彩る

